

令和6年度 須坂市立須坂支援学校 学校評価のまとめについて

【学校自己評価の結果より】A「そう思う」B「おおむねそう思う」C「そう思いにくい」D「そう思わない」
 目標・学校像 (数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(1)児童生徒は、学校へ行くのを楽しみにしている。	保護者	65	35	0	0
	職員	22	78	0	0
(2) 学ぶ場として須坂支援学校を選んでよかった。 児童生徒の学ぶ場として相応しい学校である	保護者	81	19	0	0
	職員	21	59	23	0
(3)学校教育目標（めざす子どもの姿：「自分から、自分で、せいっぱい」自分らしく輝く子ども）の達成に向けた支援がなされている。	保護者	68	32	0	0
	職員	12	75	12	0

〈保護者〉

- ・正直なところ母親が仕事を辞めて付き添いをすれば、もっと本人が能力を発揮できるチャンスがあったのかなと思います。ですが、本人の心の安定には支援学校の環境が一番だと思います。
- ・毎日楽しく学校に行っていると思います。
- ・「学校楽しくない」と言いながらも「今日は〇〇先生と〇〇した」「〇〇やったよ」など話の内容はとても楽しそう。玄関から教室まで一人で行き、子どもなりに学校、家、放デイで気持ちを切り替えて過ごせていると感じています。
- ・学校に行くのを本当に楽しみにしています。支援学校の選択はよかったなと思います。
- ・入学したばかりの長期連休明けは嫌々という感じでしたがそれ以外は見ただけでも早く学校へ行きたいというのを感じる。
- ・入学当初、全くといっていいほどできないことの方が多かったですが、どうやったら参加できるか楽しめるかなどたくさん工夫していただいて、とって笑顔が増えました。たくさん褒めていただき、できることがすごく増えました。支援学校に入学して本当によかったです。
- ・毎日嫌がらず車から降りて登校しています。
- ・先生方の支援が個人を大事にして行われているので、支援学校に入学させてとてもよかったです。
- ・現状、本人の行動の切り替えを待っていただいたり、様子から指導を変えてくださったりしているので、とてもありがたく助かっています。
- ・休日も「学校に行く」と言っています。

〈職員〉

- ・児童が登校時に落ち着かないこともあるが、ゆったりした日課で過ごすことで、切り替えられているようだ。
- ・教師とともに繰り返すことや予告、視覚支援などで見通しが持てることで、学校教育目標に近づく姿があった。
- ・願いに基づく学びがもっとできるとよいと思う。
- ・友だちと、または一人で活動することを楽しみにしている生徒が多い。
- ・(2)について、机の上に座っていても指導しない、静かな環境が必要なお子さんが多い中、ガヤガヤした環境になっていることを外部の方からご指摘いただくことがあったため、さらなる見直しが必要と感じる。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「学校へ行くのを楽しみにしている」の項目について、肯定的な受け取りをしていただいている保護者(A・Bを選択)が100%となり、昨年度より上昇した。さらに、「今日はこれをやりたい」「明日も楽しみ」と子どもたちが思えるような授業づくりを今後も目指していきたいと思います。
- ・「本校を選んで良かった」の項目について、肯定的な受け取りをしていただいている保護者(A・Bを選択)が100%となった。児童生徒の願いを大切にして、一人一人が主体的に取り組む学校生活づくりを評価していただいていると受け止めています。
- ・A・Bの評価を合わせて100%となった。本校職員の学校教育目標に向けての方向を肯定的に受け止めていただいていることに感謝したい。さらに、「じぶんから、じぶんで、せいっぱい」の姿を目指し、児童生徒の力が十分に発揮される学校を目指していきたいです。
- ・保護者に評価されている一方で、職員の中にはさらに改善を目指したいとする姿がある。同僚性を大切にしてお互いの姿から学ぶ姿勢をさらに大切にしていきたいです。

2 人権を尊重した接し方・学校づくり

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(4)人権に配慮した、指導・支援がなされている。	保護者	77	19	4	0
	職員	56	22	22	0
(5)いじめや体罰がない学校環境となっている	保護者	71	29	3	0
	職員	71	29	0	0

〈保護者〉

- ・毎回いじめについての調査用紙に記載するが、本人自ら答えられる生徒が支援学校には少ないと思うので、無意味では?とも感じてしまいます。
- ・親の立場からは正直見えづらい。分かりづらいので何も言えません。
- ・他のクラスの先生や中学部の先生もすごい気にかけてくれているのが常に思う。
- ・本当によく見てくださっているので、安心してお任せしています。
- ・いじめや体罰はなく、個人の思いを大切に支援していただいていることに感謝しています。

〈職員〉

- ・障がいの有無にかかわらず、年齢相応の声がけ(話し方)や身体接触(膝の上に座る、遊び方、抱っこ)は人権配慮につながると思うので、考えていきたい。
- ・人権に配慮していると思う。
- ・「嫌だ」という意思表示を無視したり、身体接触が行われたりしている。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「人権に配慮した指導・支援」の項目について、高い評価をいただいている。日頃から、人権を含めた研修を行ったり、一人一人に寄り添った支援を心がけたりしていることがこの評価につながったと考える。また、研修を繰り返していく中で、コメントでご指摘いただいている点に注意しながら支援を行えるように、さらに人権感覚を高めていきたいです。
- ・「いじめや体罰のない学校」の項目について、肯定的な評価が多く見られる一方で、C「そう思いにくい」と回答した保護者(3%)がいることから、さらに児童生徒が安心できる学校、安全に過ごせる学校づくりを目指したい。支援の方法についても毎日の支援の見返しながら、さらに「行きたい」「やりたい」と思える活動をすることで、子どもたちが生き生きと過ごせる環境を整えていきたいです。

3 個に応じた指導

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(6)個別の指導計画は、本人、保護者の願いが反映されている。	保護者	77	19	4	0
	職員	44	56	0	0
(7)個別の指導計画に沿って、日々の授業が実践され、授業内容はお子さんに合っている。	保護者	71	29	0	0
	職員	24	76	0	0

〈保護者〉

- ・本人に指導可能だった点はよく伝わってくるが本人に指導できなかつた点があつたかなかつたかが伝わりにくいと感じる。
- ・先生方の毎日のコメントを読むと、日々いろいろなことを経験させてもらい、共感し成長しているんだなと感じます。
- ・いろいろ考えてやってくれています。
- ・個別面談などで今こういうことをしているが、今後はこういうことも考えていると具体的に教えてくれる。
- ・やってほしいことを案に出すとすぐにやっていただいたり、一緒に考えてくださったりするので、とてもありがたいです。
- ・支援会議や個別懇談会で話した内容を具体化していただき、取り入れてもらっています。
- ・子どもの成長に合わせた授業が行われていることがよく分かります。

〈職員〉

- ・指導計画作成前に保護者懇談があるので話が聞きやすい。
- ・本人の願いは保護者とともに推察した。個別の指導計画にいつも添えるように確認しやすいと思う。授業が活動や計画優先になっているのではと反省することもある。
- ・その子に合った教材作りを職員一人一人が考えているため、時間いっぱい授業に取り組むことができている。
- ・本人や保護者の願いは最終目標なので、そこへスモールステップの目標を設定していけるといい。
- ・個別の指導計画を丁寧に作成し取り組もうとする先生が増え、見習いたいと感じる。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・個別の指導計画について「本人、保護者のねがいを反映」(70%→77%)「日々の授業に反映」(54%→71%)とA評価が昨年度よりも増加した。保護者・職員ともに個別の指導計画の理解が進み、職員の記述内容がわかりやすいものになってきたことが評価につながったと考える。ただし、保護者の方から指摘いただいているように、さらに学んだことを伝わりやすくしていくように研修を積み重ねていきます。
- ・個別の指導計画の作成に向けて、本年度、個別の指導計画作成日を設けたことで、職員の理解と活用が進み、A評価(8%→24%)がC評価(17%→0%)と大きく評価を上げる要因となった。さらに自信を持って保護者に伝えられる個別の指導計画としていきたいです。

4 チーム支援

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(8)職員は、お子さんを理解し、特性に応じた支援をしている。	保護者	74	23	3	0
	職員	39	56	5	0
(9)部・学級の職員が連携して、児童生徒の支援に取り組んでいる。	保護者	77	16	7	0
	職員	50	33	17	0

〈保護者〉

- ・足のリハビリに関連した授業を導入してくださったり、特性を理解しながら少しずつ進めていただいたりして感謝しています。
- ・その子に合わせて支援がされていて感謝です。
- ・どの先生も本当によく見てくださるので助かっています。ありがとうございます。
- ・クラスだけでなく、隣接クラスとも共有し、全職員の方が取り組んでいると感じます。
- ・先生方が子どものことを理解されていて、よく支援していただいていると思います。
- ・今のクラスでは問題なく支援していただいているのですが、他のクラスの保護者さんからは A 先生に伝えたことが B 先生に伝わっていない等を聞きますので、そのお子さんの特性や日々変化していく行動を逐一共有していただけると（すでにあるかもしれませんが一目見て分かるような表、資料などがあると）先生間の負担も少ないだろうし、連携につながるのかなと思いました。

〈職員〉

- ・担任それぞれで工夫したり考えたりしているが、支援内容や方針についてはもっと学級で考えていかなければならないと思う。
- ・特性の前に、まずその子の生い立ちや家族関係など、その子が抱えているもの、そして人としてという部分で同じ人間という立場を大切に支援にあたりたい。
- ・学級での連携はよくできていると思うが、他学級や中学部との連携はあと一歩かなと思う。お互い困っているときにはさっと助けられるそんなチームになるとうれしい。
- ・特性に配慮し連携していると思う。先生方に学ばせていただいている。
- ・部会では生徒理解に重きをおいている。職員は担当となっている以外の生徒にも相応の対応をしている。
- ・(8)について、職員の専門性が必要な部分。自分たちで行き詰まったときは外部の専門家を活用していけるといい。
- ・学級を超えた応援体制ができるといい。他のクラスを見ることは刺激になり勉強になると思う。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・チーム支援についての A 評価の保護者の数値は高く、評価して頂いている部分もあるが、職員も含めて C 評価の数値が多く見られる夏休み明けからクラス会を毎週位置付けて、まずはクラス内の連携の強化を図っている。情報の共有を確実に行うことで、クラス内の連携を高めていきたいです。
- ・職員の評価でも連携面の弱さについて指摘されている。クラス内で共有したことを、部長を中心にクラス間・部間で情報を共有したり、レインボータイムやたてわり班での活動などで児童生徒の姿を共有したりすることで、児童生徒の姿を通して連携を高めていきたいです。

5 保護者との連携

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(10)保護者とは、十分に連携でき、安心感・信頼感を感じる。	保護者	65	32	3	0
	職員	22	67	11	0
(11)学校は、保護者の思いに寄り添い、誠意を持って応えている。	保護者	74	19	7	0
	職員	44	56	0	0

〈保護者〉

- ・忘れ物をしたとき直ちに届けていただいたり、フォローをしてくださったりして安心していられました。
- ・毎日連絡ノートに細かく学校での様子や給食で食べたものまで記載してくれるので、助かっています。
- ・教室まで親が付き添うのを嫌がり、今は教室まで一人で行かせています。
- ・おうちの方の悩みも一緒に考えてくれて助かります。
- ・困りごとの相談に乗ってくださったり、できたことは一緒に喜んでくださったりするので、すごくうれしいです。いつもありがとうございます。
- ・クラスの先生とは連携できているが、他のクラスの先生は話をしたことがない方も多く、交流の機会

があればいいと思う。

- ・朝夕の送迎時や連絡ノートを使って常日頃から話をしています。
- ・先生からは、ちょっとしたできごととも連絡いただけて安心して学校に通わせています。
- ・他の保護者からは、なかなか先生とのコミュニケーションがうまく伝わらず子どもの支援に食い違いがあると聞いています。

〈職員〉

- ・誠意を持って応えるよう心がけているが、要望や悩み、課題などを保護者から聞くことがあまりないので、信頼されているか分からない。
- ・児童が具合悪い時の対応について、部長や養護教諭から保護者に伝えてもらいたいと思った。
- ・保護者の困り感に対して、話を聞くだけで、解決に向かうような行動にはなかなか移せていないことが現実。誰にどう発信していけばいいのか学校として考えていきたい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・保護者のA評価の割合が60%→65%と評価が上がっている一方で、C評価が出てきている。「他の保護者からは、なかなか先生とのコミュニケーションがうまく伝わらず子どもの支援に食い違いがあると聞いている」という指摘を受けていることに着目して、クラス・部・学校と情報を共有したり連携したりしながら対応し、保護者の方の思いにさらに寄り添えるようにしていきたいです。

6 地域連携

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(12) 支援会議を通して、福祉・医療機関や市町村などと連携し、保護者のニーズに答え、計画的な支援を行っている。	保護者	74	23	3	0
	職員	41	47	12	0
(13) 学校からのおたよりなどで、学校の様子が伝わっている。	保護者	73	27	0	0
	職員	59	41	0	0

〈保護者〉

- ・支援会議の時、話をする時間の目安があった方がいいのではないかと感じる。特に医療機関など外部の方と支援方法を一緒に考える時間を多く確保してほしい。
- ・支援会議ではいろいろな支援をしてもらっています。支援計画も成長に合わせて進めてもらっています。
- ・子どもの様子を細かいところまで教えてくださるので、分かりやすいです。
- ・おたよりは学校でどんなことをしているのか、どんな様子か知れるので、ありがとうございます。
- ・十分に対応していただいています。
- ・支援会議ではそれぞれの機関との連絡もとっていただき将来に向けての保護者の思いも伝えやすくしていただけて助かります。

〈職員〉

- ・支援会議をすることで共有（情報や姿）することはできるが、具体的な支援や今後の方針など計画的な支援につながっているかは分からない。
- ・外部からの指導者が多すぎる。まず子どもの隣にいる教員が共同生活者として「使役」ではなく、共に生き活動して願いや苦しみ、悲しみを共感的に接し、受け止め、その子の思いを仮説を立ててからとらえられる教師を目指したい。
- ・7月の進路講話を受けて、福祉サービス利用の日が多いことが気になっている。
- ・前回の支援会議の内容と異なる支援会議になることがあり、積み重ねてきた共有が難しいことがある。
- ・支援会議は福祉のモニタリングも兼ねている方が多いため、学校主催の支援会議でそれがどうか考えていく必要がある。頻度、時間についても検討が必要。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「支援会議を通しての連携」について、昨年度同様の評価で多くのご家庭から肯定的な評価であった。
- ・学校で行う支援会議については、学校で行う必要があるものに絞ったり、コメントにあるように時間の使い方についてさらに配慮したりしていきたいです。
- ・校長室だより、学校だより、各学級から出るおたより等で、学校の様子を発信していることが高い評価につながっていると考える。引き続き学校の様子をご家庭に伝わるものとしていきます。

7 交流及び共同学習

(数値は%表示です)

評価項目		A	B	C	D
(13) 須坂小学校や常盤中学校および居住地校との交流 はお互いを知り合う機会となっている。	保護者	52	39	9	0
	職員	22	56	22	0

〈保護者〉

- ・高学年になると他校の支援学級の児童さんたちと交流するイベントがあるようなので、楽しみです。
- ・同園出身外の友だちも隣にびったり座ることや話しかけられることにも身構えることなく、自然でクラスの中にいるのをあたりまえのようにしていることに、すごくうれしく感じます。一緒にいることで、偏見や違和感がなくなっていることを知ってもらうことの大切さを感じます。ずっと一緒のお友だちは成長を喜んでくれて会うたび褒めてくれます。
- ・違う小学校の交流ですが、仲良く交流させてもらっています。
- ・すごくいい経験になっているので、これからも交流をしていていただきたいです。
- ・小学校の子どもたちとの交流も意欲的に行っていただけだと思います。一歩外の生活になると周りの目が気になりますが、学校生活ではそういった気がかりなく過ごせていると思います。
- ・登下校等で子どもと歩いていると声をかけてもらえたりして、とてもありがたいです。副学籍の先生も積極的に接していただけているので、子どもの様子を知ってもらっている。

〈職員〉

- ・前庭で一緒に遊ぶ姿も見られます。
- ・併設校として、行事や交流など仕組み方を考えていく必要があるかと思う。
- ・支援学校発信の交流がほとんどなので、相手校からも〇〇があるよ等のお誘いやお知らせがあるとうれしいと思う。
- ・たてわり班交流を継続していくことでお互いを知り合える良い機会となると思う。
- ・お互い多忙になってきているが故に、かつてできていた交流ができなくなっている。
- ・せっかく同じ校舎内で生活しているので、休み時間や行事だけでなくもっといろんな場で交流していけるといい。須坂小とも相談していろんなアイデアが出していけるといい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・保護者の評価については昨年と同様の評価であった。副学籍や交流及び共同学習を行っているご家庭については肯定的な意見がほとんどであった。交流先の先生とのやり取りを自然なものとしていくことで、さらにより良い交流の方法を探っていきたいです。
- ・職員の評価については、本年度からスタートした須坂小学校とのたてわり班交流について、十分な見通しがなかったからではないかと思われる。交流が進むにつれて、笑顔がたくさん見られる時間となっている。交流のアイデアを出し合いながら、繰り返して計画された交流を重ねていくことで、お互いに名前と顔を覚えらる交流を目指していきます。須坂小学校の先生方とも連携しながら、より良い方向を探っていきたいです。

8 学校への意見・要望等

〈保護者〉

- ・成長させたくてどんどん要望を言ったり、本人をがんばらせてしまったりしがちですが、いつもこちらの要望を取り入れて楽しく課題ができるように工夫していただき、感謝しています。
- ・近くに信頼できる学校があることに感謝しています。本人の意思を汲んでいただき、活動に参加でき、その子、その子の好きなこと、好きそうなことを取り入れた活動を考えてもらいたいと思います。忙しい中、先生方は大変だと思います。いつもありがとうございます。
- ・いつも子ども本人の意思や気持ちを尊重し、興味を持ったことを学習に取り入れて楽しく学べるような工夫などしていただき、大変感謝しています。ありがとうございます。
- ・コロナ禍が落ち着き、交流機会が順々に増えてきていると思います。
- ・子どもたちは低学年と高学年の交流もよくされていると思いますが、保護者同士の交流ももっと多くなるとよいなあと思います。先生方には本当に感謝しています。
- ・いつも子どもたちを支援していただきありがとうございます。お忙しい中、試行錯誤していただきながら日々子どもたちと関わってくださっていると思うのですが、先生と保護者や、先生間の子どもへの共通認識、支援のあり方についてばらつきがあるように思います。いろいろな特性のある子どもたちのいる中で難しいと思いますが、親としては一番成長の変化のある6年間はその後の子どもの人生を成形する大切な時間だと思っていますので、子どもの今を尊重しつつ、保護者も学校も意見を出しながら情報を共有し合い、よい影響を与えることはどんどん取り入れていただけたらと思います。いろいろ書きましたが、学校が子どもたちにとってとても楽しみな場所であり、安心していられる居心地のよい場所になっているのは、子どもの顔から分かっているのでもっとありがたく思っています。今後も進化する須坂支援学校を期待しています。
- ・先生方にはいつもあたたかく見守っていただき、本人に合わせた支援をしていただき感謝しています。ありがとうございます。
- ・去年、今年のかぬぎの森フェスティバルに参加させていただき、2回ともとても楽しい時間を過ごさせてもらいました。今年のペンキ塗りは、壁にペンキで絵を描くというふだんできない経験をさせてもらって、親子共々楽しかったです。親も一緒に参加なので、働いていると難しいものもありますが、もっと支援学校の子も参加しやすい講座があったらもっと参加する親子が増えてくるのではないかと思います。

【評価を踏まえた今後の学校運営の方向】

- ・保護者からは、学校運営に関し、昨年に引き続き肯定的な評価を多くいただいたことをありがたく受け止めるとともに、A評価にしなかったB評価の保護者や、C評価であった保護者の思いに寄り添いたいです。
- ・目指す姿である「自分から 自分で せいっぱい」の具現化を継続していきたい。そのために児童生徒が、つながりを大切にしながら日々が過ごせるように保護者・学校・地域・副学籍校などの連携を高めていく取り組みをしていきたい。特に保護者とは、評価が高まってきている個別の指導計画を生かして、目指す姿の共有や日常的な情報を図って連携をさらに強いものとしていきたいです。
- ・項目全体で職員の評価が保護者に比べて低いことが目立つが、個別の指導計画作成日を設けたことで、評価が大きく向上した部分も見られている。具体的な改善を図ることを繰り返すことで、確かな実感と共に職員自らの肯定感を上げていきたいです。